

4  
エズラ  
聖徒伝 197

# 神の御手に 導かれて

エズラ書7~8章

エズラの帰還

# アウトライン

0. イントロダクション

I. エズラの帰還 7章

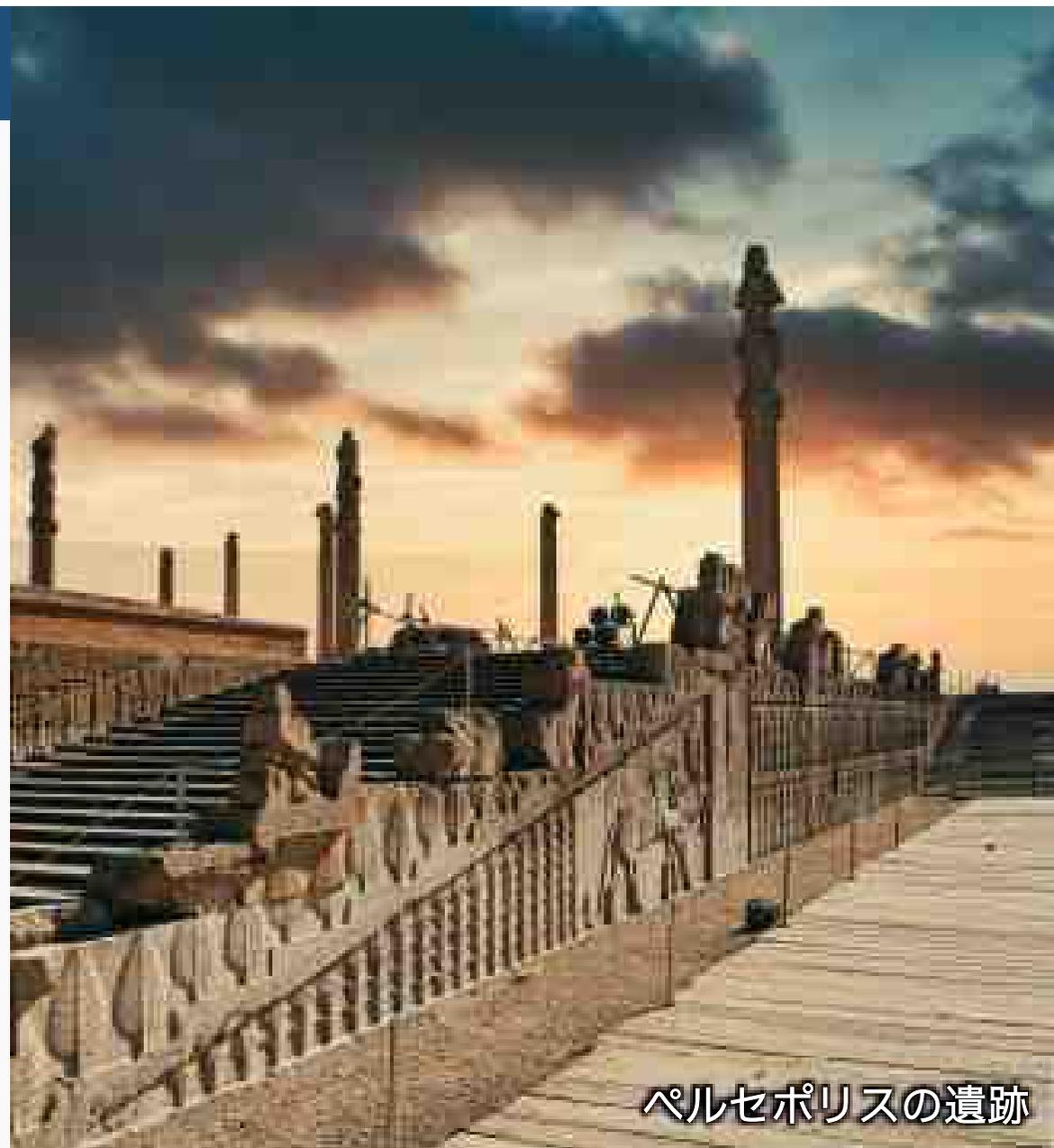
II. 帰還者たち 8章

III. まとめと適用

どこで

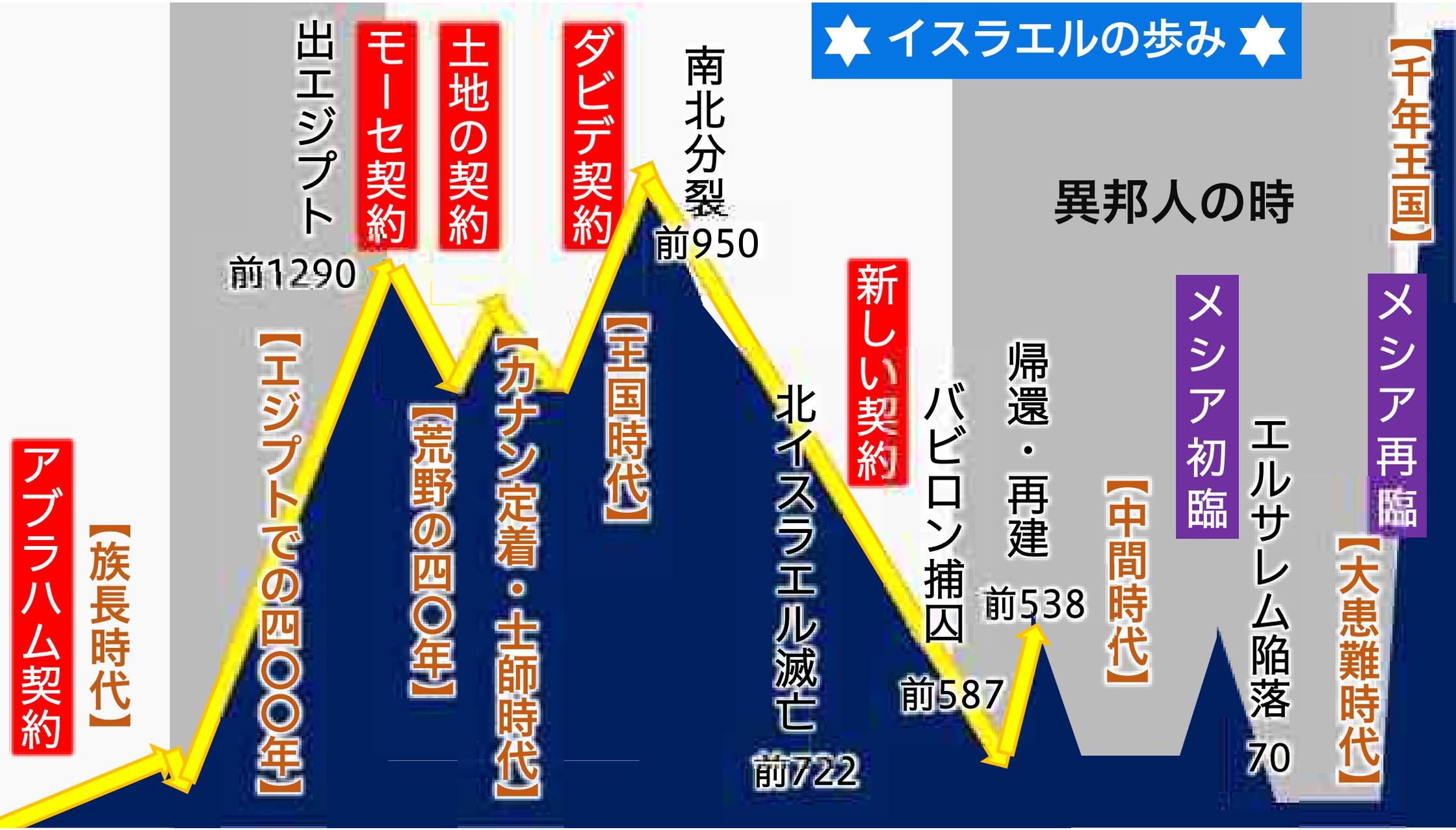
だれと

どのように？



ペルセポリスの遺跡

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

北イスラエル滅亡

前950

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落

70

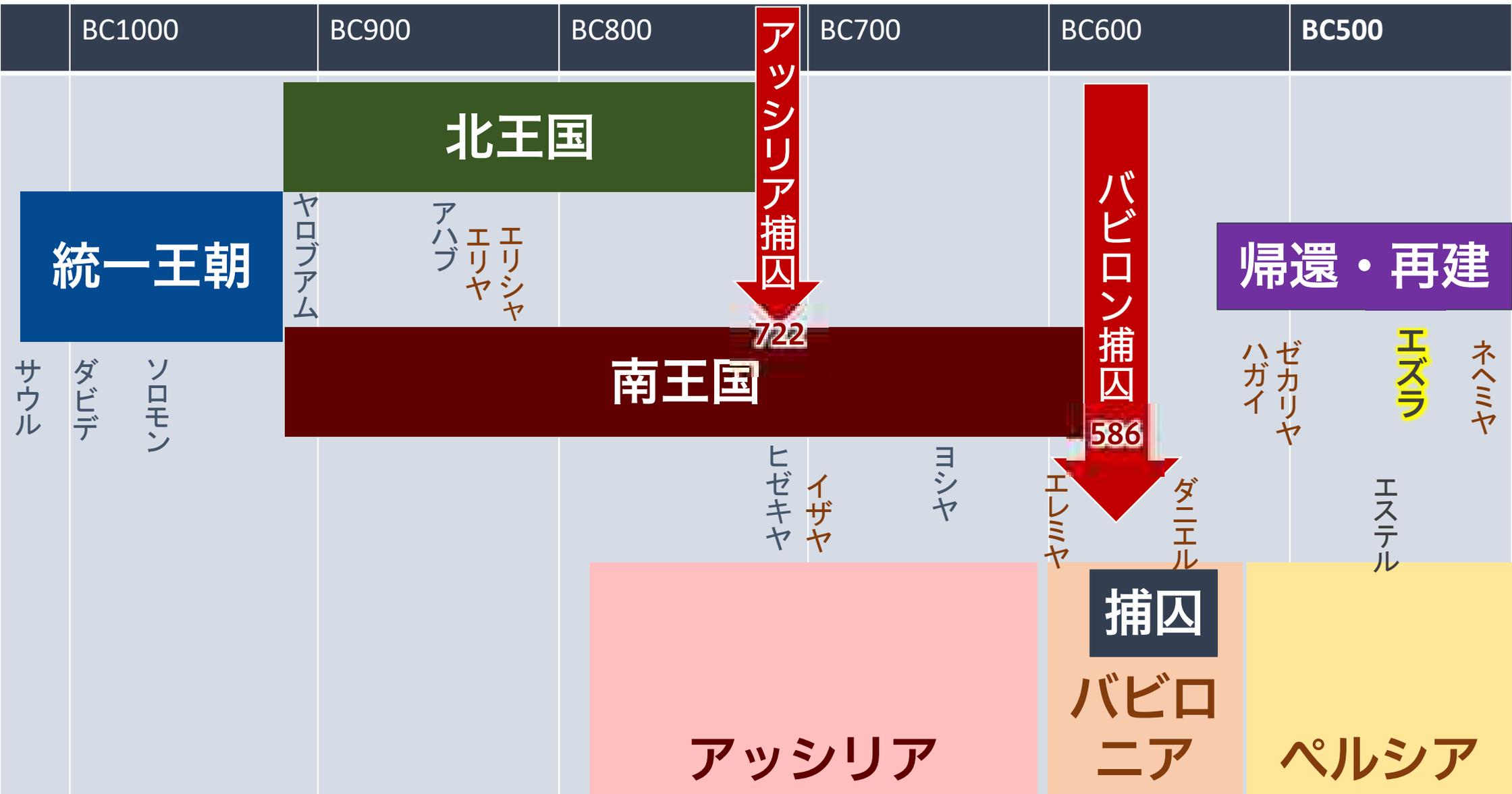
異邦人の時

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

# イスラエル王国史



# アケメネス朝 ペルシア

ニネベ  
■

バビロン  
■

ペルセポリス  
■

エルサレム  
■

エジプト



## エズラ記の構成

1～6章	神殿の再建	1章	キュロス王の布告
		2章	帰還民の部族リスト・再建の開始
		3章	神殿建設・礎の敷設
		4章	妨害(15年間停止)
		5章	工事の再開
		6章	神殿の完成・奉獻
7～10章	信仰の再建	7章	<b>エズラ</b> の帰還
		8章	レビ人と祭司の再編
		9章	異邦人との雑婚問題
		10章	悔い改めと聖別



## 年代表 捕囚後の時代

年代	イスラエル	ペルシャ
前538年	約5万人が帰還 ゼルバベル	バビロン陥落 キュロス王の布告
前520年	ハガイ・ゼカリヤの帰還	ダレイオス王 第2年
前515年	神殿の完成	
前476年	マラキ?!	エステルがペルシャの王女に クセルクス王
前458年	エズラ のエルサレム到着 律法の確認・霊的覚醒	アルタクセルクス1世
前444年	ネヘミヤが帰還・城壁再建	エズラ記は、 捕囚後の歴史を網羅

ゼカリヤ書

エズラ記



# Ⅰ. エズラの帰還

エズラ記 7 章

ペルセポリスの遺跡

## 帰還 エズラ エズラ7:1

これらの出来事\*の後、ペルシアの王アルタクセルクセス\*の治世に、セラヤ\*の子エズラ\*という人がいた。

\* 神殿完成から57年後。解放から80年後。

\* エステルが嫁いだクセルクセス王の次。

\* “ヤハウエは支配者”

\* “助け”

■ 神殿完成から時も過ぎ、代替わりしていた。



ペルセポリス

## 帰還 エズラの系譜 エズラ7:1～5

セラヤはアザルヤの子、順次、ヒルキヤの子、シャルムの子、ツアドクの子、アヒトブの子、アマルヤの子、アザルヤの子、メラヨテの子、ゼラフヤの子、ウジの子、ブキの子、アビシュアの子、ピネハスの子、エルアザルの子、このエルアザルは祭司のかしら**アロンの子\***である。

\*エズラは、正統な祭司の家系。

➡大祭司を務めてもおかしくないほど!!



## 帰還 律法の学者 エズラ7:6

このエズラがバビロンから上って来たのである。彼はイスラエルの神、【主】がお与えになったモーセの律法に通じている学者\*であった。彼の神、【主】の御手が彼の上にあった(1)ので、王は彼の願いをすべてかなえた。

■ 捕囚の地で、神殿に仕えられなくなった祭司たちが、律法に通じた学者\*となっていたのだろう。

➔ 祭司、レビ人も律法教育を担った。



主が、王まで用いて  
エズラを導かれた!!

## 帰還 第二次帰還 エズラ7:7~8

アルタクセルクセス王の第七年に、イスラエル人の一部、および祭司、レビ人、歌い手、門衛、宮のしもべの一部が、エルサレムに上って来た。エズラは王の第七年\*の第五の月にエルサレムに着いた。

\*前458年 …第一次帰還から約80年後



ペルシアの浮彫

## 帰還 エズラの使命 エズラ7:9~10

すなわち、彼は第一の月の一日\*にバビロンを出発した。彼の神の恵みの御手は確かに彼の上であり(2)、第五の月の一日\*に、彼はエルサレムに着いた。

エズラは、【主】の律法を調べ、これを実行し、イスラエルで掟と定めを教えよう\*と心を定めていた。

\*バビロン→エルサレム 約1,600km

→4ヶ月で到着。

乾季のまったく中だが、極めて順調な旅!!

\*エズラの使命は、主の律法を民に教えること!!





アケメネス朝  
ペルシャ

ニネベ



バビロン



ペルセポリス



エルサレム



エジプト

約1,600kmを  
4ヶ月で!!

## 帰還 王の手紙 エズラ7:11

アルタクセルクセス王が、祭司であり学者\*であったエズラに与えた手紙の写しは次のとおりである。このエズラは、【主】の命令のことばと、イスラエルに関する主の掟に精通していた\*。

\*祭司と学者を兼務していた!!

\*何より重要なこと



ペルシアの浮彫

## 王の手紙

エズラ記7:12～14

「王の王アルタクセルクセス。天の神の律法の学者である祭司エズラへ。中略。さて、私は命令を下す。私の国にいるイスラエルの民、その祭司、レビ人のうち、だれでも自分から進んでエルサレムに上って行きたい者は、あなたと一緒に行ってよい。

なぜなら、あなたは王とその七人の顧問によって遣わされているからである。それは、あなたの手にあるあなたの神の律法にしたがって、ユダとエルサレムを調査するためである。

**この手紙は王の勅令!!**



## 王の手紙

エズラ記7:15～16

また、王とその顧問たちが、エルサレムを住まいとされるイスラエルの神に進んで献げた銀と金を、

またバビロン全州であなたが得るすべての銀と金を、それに、エルサレムにある自分たちの神の宮のために、民と祭司たちが進んで献げたささげ物を合わせて、携えて行くためである。

**王も献金!!**



## 王の手紙

エズラ記7:17～18

それゆえ、あなたはその献金で、雄牛、雄羊、子羊、また、そのための穀物のささげ物と注ぎのぶどう酒を怠りなく買い求め、エルサレムにあるあなたがたの神の宮の祭壇の上で、それを献げなければならない。

また、残りの銀と金の使い方については、あなたとあなたの兄弟たちが良いと思うことは何でも、あなたがたの神のみむねにしたがって行うがよい。



## 王の手紙

エズラ記7:19

また、あなたの神の宮での礼拝のために渡された用具は、エルサレムの神の前に供えよ。

そのほか、あなたの神の宮のために必要なもので、どうしても支出しなければならないものは、王室の金庫からそれを支出してよい。

**国庫からも献げ物の必要を抛出!!**



## 王の手紙

エズラ記7:21～22

私アルタクセルクセス王は、ユーフラテス川西方の財務官全員に命令を下す。天の神の律法の学者である祭司エズラが、あなたがたに求めることは何でも、怠りなくそれを行え。

すなわち、銀は百タラント(3.4t)まで、小麦は百コル(23,000ℓ)まで、ぶどう酒は百バテ(2,300ℓ)まで、油も百バテまで、塩は制限なし。

**地方総督も資金・物資を拠出**



## 王の手紙

エズラ記7:23～24

天の神の宮のために、天の神によって命じられていることは何でも、熱心に行え。御怒りが王とその子たちの国に下るといけないから。

また次のことを知らせる。祭司、レビ人、歌い手、門衛、宮のしもべ、すなわち、この神の宮に仕える者たちにはだれに対しても、貢ぎ物、関税、税金を課してはならない。

**免税特権も!!**



## 王の手紙

エズラ記7:25～26

エズラよ。あなたは自分の手にあるあなたの神の知恵にしたがって、さばき人や裁判官を任命し、ユーフラテス川西方にいるすべての民、すなわち、あなたの神の律法を知っているすべての者をさばかせよ。またあなたがたは、これを知らない者に教えよ。

あなたの神の律法と王の律法を守らない者には、だれに対しても、死刑でも、追放でも、財産の没収でも、投獄でも、その判決を厳格に執行せよ。」

**イスラエルの統治権も!!**



## 帰還 主の御手 エズラ7:27~28

私たちの父祖の神、【主】がほめたたえられますように。主はエルサレムにある【主】の宮に栄光を与えるために、このようなことを王の心に起こさせ、王とその顧問と、王の有力な高官すべての前で私に恵みを得させてくださった。私の神、【主】の御手が私の上にあったので、私は奮い立って、一緒に上るイスラエル人のかしらたちを集めることができた。

- 主ご自身が、背後でペルシア王を動かし、エズラの帰還を導き通された。



感謝の祈りを  
ささげるエズラ



## II. 帰還者たち

エズラ記8章

ペルセポリスの遺跡

# 帰還者の系図

エズラ記8:1

アルタクセルクセス王の治世に、バビロンから私と一緒に上って来た一族のかしらと、その系図の記載は次のとおりである。



## 帰還者の系図

エズラ記8:2～6

ピネハス族からはゲルシヨム。イタマル族からはダニエル。  
ダビデ族からはハトシュ。

ハトシュはシェカンヤの孫。パルオシュ族からは、ゼカリヤと、系図に記載された同行の者、男子百五十人。

パハテ・モアブ族からは、セラフヤの子エルエホエナイと、同行の男子二百人。

ザト族からは、ヤハジエルの子シェカンヤと、同行の男子三百人。

アディン族からは、ヨナタンの子エベデと、同行の男子五十人。

## 帰還者の系図

エズラ記8:7～11

エラム族からは、アタルヤの子エシャヤと、同行の男子七十人。

シェファテヤ族からは、ミカエルの子ゼバデヤと、

同行の男子八十人。

ヨアブ族からは、エヒエルの子オバデヤと、同行の男子二百十八人。

バニ族からは、ヨシフヤの子シェロミテと、同行の男子百六十人。

ベバイ族からは、ベバイの子ゼカリヤと、同行の男子二十八人。

## 帰還者の系図

エズラ記8:12～14

アズガデ族からは、ハ・カタンの子ヨハナンと、同行の男子百十人。  
アドニカム族からの者は最後の者たちで、その名はエリフェレテ、  
エイエル、シェマヤ、および彼らと同行の男子六十人。  
ビグワイ族からは、ウタイとザクルと、同行の男子七十人。

■部族の多くは、第一次帰還と重なる。

➡様々な部族の中から帰還者が起こされた!!

## 帰還 レビ人を探して エズラ8:15~17

私はアハワに流れる川のほとりに彼らを集め、私たちはそこに三日間宿営した。私はそこに民と祭司たちを確認したが、レビ人は見つけることができなかった。

それで私は、かしらのエリエゼル、アリエル、シエマヤ、エルナタン、ヤリブ、エルナタン、ナタン、ゼカリヤ、メシュラムと、教師エホヤリブ、エルナタンを呼び集め、カシフヤ地方\*のかしらイドについて、彼らに指示した。

\*別な地の寄留民にレビ人の消息をたずねた。



ユーフラテス川河畔

## 帰還 レビ人たち エズラ8:17~18

すなわち、イドとその同僚、またカシフヤ地方にいる宮のしもべたちに対して、私たちの神の宮に仕える者たちを送ってもらうためには何と云えばよいか、彼らにことばを授けた。

私たちの神の恵みの御手が私たちの上にあつたので(3)、彼らはイスラエルの子、レビの子、マフリの子のうちから賢明な者、シェレベヤと、その子たち、およびその兄弟たち十八人を私たちのところに連れて来てくれた。

■ 同行するレビ人(神殿の奉仕者)も無事確保。



ユーフラテス川

## 帰還 宮のしもべたち エズラ8:19

また、ハシャブヤとともに、メラリの子のうちからエシャヤと、その兄弟と、その子たち二十人、および、ダビデとその高官たちにより、レビ人に奉仕するよう任命されていた宮のしもべたちの中から、二百二十人の宮のしもべたちを連れて来た。これらの者はみな、指名された者であった。

- 宮の様々な雑事に当たるしもべたちも同行した。 ➔ ダビデ時代からの子孫



ユーフラテス川

## 帰還 断食 エズラ8:21～22

私はそこ、アハワ川のほとりで断食\*を布告した。それは、私たちの神の前でへりくだり、私たちのために、私たちの子どもたちと、私たちのすべての持ち物のために、道中の無事を神に願い求めるためであった。

それは私が、道中の敵から私たちを助ける部隊と騎兵たちを、王に求めるのを恥じたからであった。

■断食\* ➡神への祈りに集中するため  
王に護衛を求めず、主に委ねた。



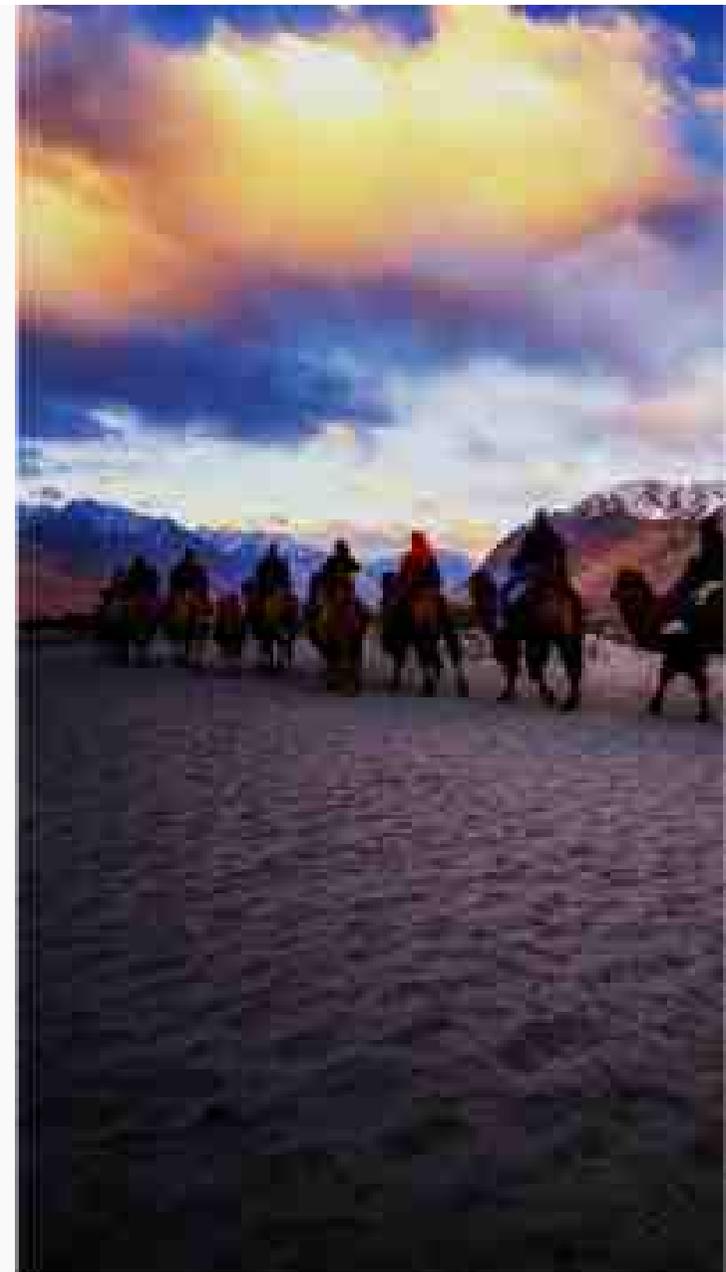
## 帰還 聞かれた祈り エズラ8:22～23

実際、私たちは王に、「私たちの神の御手は、神を尋ね求めるすべての者の上に幸いを下し、その力と怒りは、神を捨てるすべての者の上に下る\*」と言っていたのである。

そのため私たちはこのことのために断食して、自分たちの神に願い求めた。すると、神は私たちの願いを聞き入れてくださった。

\*王にイスラエルの神を強く証ししていた

■盗賊に襲われることもなく、旅を守られた。



## 帰還 奉献物の管理者 エズラ8:24～26

私は祭司長たちのうちから十二人、すなわち、シェレベヤとハシャブヤ、および彼らの同僚十人を選び分けた。

そして、王、顧問たち、高官たち、および、そこにいたすべてのイスラエル人が献げた、私たちの神の宮への奉納物である銀、金、器を量って、彼らに渡した。私は銀六百五十タラント(22t)、百タラント(3.4t)相当の銀の器、および金百タラントを量って、彼らに渡した。

■ ささげ物の管理者が選び出された。

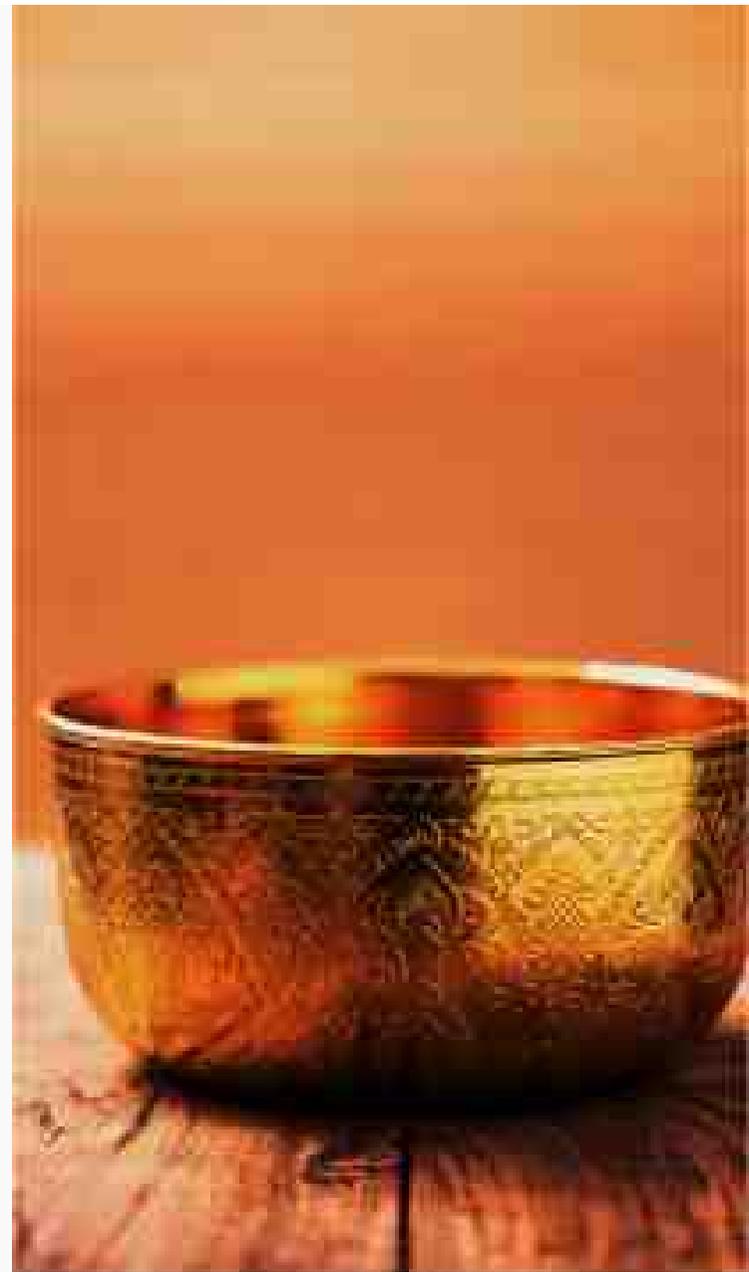


## 帰還 聖なるもの エズラ8:27~28

また、一千ダリク(8.5kg)相当の金の鉢二十、さらに、金のように高価な、光り輝く見事な青銅の器二個を彼らに渡した。

それから私は彼らに言った。「あなたがたは【主】の聖なるもの\*である。この器も聖なるものである。この銀と金は、あなたがたの父祖の神、【主】に対する、進んで献げるものである。

\*他と区別…主にのみ仕え、用いられるもの

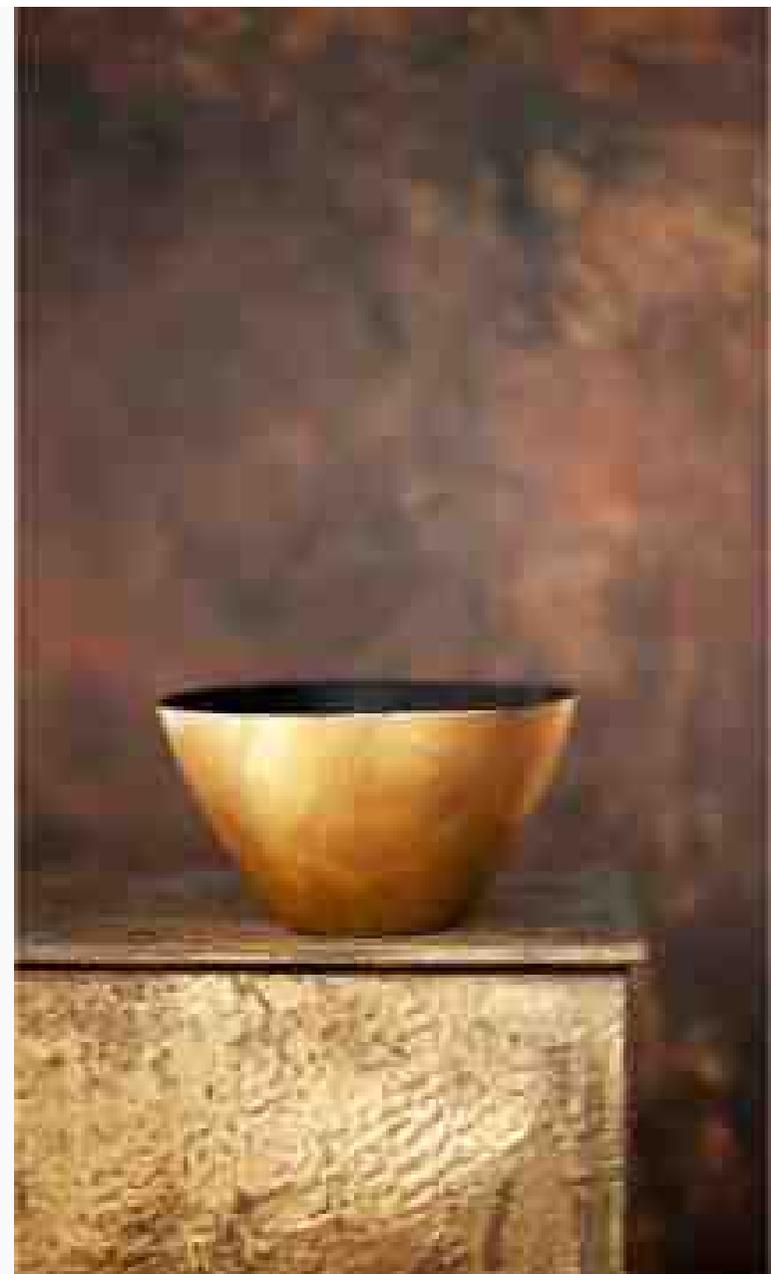


## 帰還 献げ物の番 エズラ8:29~30

あなたがたは、エルサレムの【主】の宮の部屋で、祭司長たち、レビ人たち、イスラエルの一族の長たちの前で重さを量るまで、寝ずの番をしてそれらを守りなさい。」

祭司とレビ人たちは、重さを量った銀、金、器を、エルサレムの私たちの神の宮に持って行くために受け取った。

- すべての献げ物が、間違いなく主のために用いられるように。



## 帰還 旅の守り エズラ8:31

私たちはエルサレムに行こうと、第一の月の十二日にアハワ川を出発した。私たちの神の御手が私たちの上であり(4)\*、その道中、敵の手、待ち伏せする者の手から私たちを救い出してくださいました。

\*主が帰還民を完全に守られた。

➡出エジプトのイスラエルの民のように



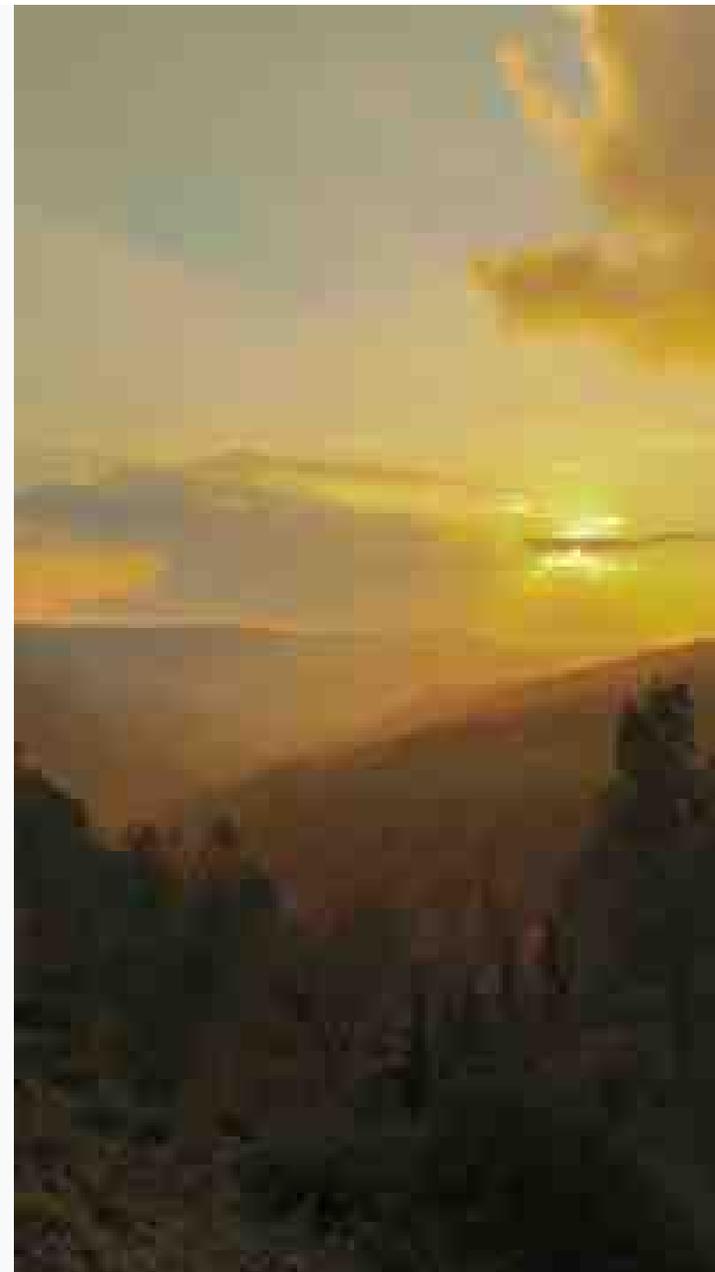
## 帰還 エルサレムで エズラ8:32～34

こうして私たちはエルサレムに着いて、そこに三日間とどまった\*。

四日目に銀と金と器が私たちの神の宮の中で量られ、ウリヤの子の祭司メレモテの手に渡された。彼とともにピネハスの子エルアザルがいて、彼らとともに、レビ人である、ヨシュアの子エホザバデとビヌイの子ノアデヤがいた。

すべてが数えられ、量られた。そのとき全重量が書き留められた。

\*まず礼拝のための準備がなされた



## 帰還 全焼のささげ物 エズラ8:35

捕囚の人々で、捕囚から帰って来た者は、イスラエルの神に全焼のささげ物を献げた。すなわち、全イスラエルのために雄牛十二頭、雄羊九十六匹、子羊七十七匹、罪のきよめのささげ物として雄やぎ十二匹を献げた。これはすべて【主】への全焼のささげ物\*であった。

\*完全に焼き尽くして、  
すべて主にささげる最上の献げ物。



## 帰還 総督たち エズラ8:36

それから、彼らは王の命令書を、  
王の太守たちとユーフラテス川西方  
の総督たちに渡した。この人たちは  
この民と神の宮に援助を与えた\*。

\*ペルシアの地方総督たちまで、  
帰還民を援助に、神殿に献げた。





### Ⅲ. まとめと適用

どこで、だれと、どのように？

ユーフラス川

## エズラの帰還の背景

■ エズラを指導者とした、第二次帰還は、ペルシア王アルタクセルクセスの勅令を受けてのもの。

■ エズラたち、残れる信仰者たちの祈りと証しがあった。

■ 「力あるイスラエルの神にあやかりたい」ということ?!

→ 典型的な偶像崇拝者の発想

■ 主が、ペルシアの王を用いて、民の帰還を実現させた。

**「主の御手が私たちの上にあった」 がゆえに!!**



## エズラの信仰に学ぼう

■ アロンの系譜を継ぐ**祭司**であり、律法に精通した**学者**だったエズラ。ペルシア王にも重用され、民の信頼も得ていた。

■ 第二次帰還について克明に記録するだけでなく、第一次帰還に遡って、捕囚後のイスラエルの歴史を編纂している。  
→ルカのような**歴史家**でもあった。

■ 絶大な権力を持つ王にもひるまず、イスラエルの神を証しした。民に帰還を促し、帰還民を組織し、神への祈りを導いた。

**エズラは、御言葉に堅く立ち、遣わされ、人々の信仰を導いた**

## 私・あなたが遣わされた場所、使命は？

- 今の時代の異邦人信者に、地上で帰るべき場所があるわけではない。
- しかし、一人一人に、遣わされた場所、人、使命は必ずある。
- 具体的に自覚し、実際に遣わされ、現実に用いられているだろうか。



キリストの弟子の一人として、  
私は、どこで？  
だれと？  
なにを なすべきなのか？

## ★ 遣わされた場所、人、使命を確認して歩み出そう ★

例)個人、教会としての証し …これまで以上に具体的な行動の促しが

- 世界的衰退という未知の領域に人類は足を踏み入れつつある。戦争も災害も恐慌も、当然のごとく起こるだろう。それでも世にある限り、神の平和のため、信仰者は用いられていく。
- イスラエル使命は、主が与えられた**土地**と堅く結びついていた。主イエスは**ナザレ**で育ち、**ガリラヤ**に軸足を置いて宣教された。私たちの信仰共同体も、**地域と生活**に深く根ざすよう求められる。

どこで、だれと、どのように、主の働きを担っていくのか？

てん とう つみ  
「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

かみ こ  
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

① わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ  
② 墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん  
③ 三日目に復活したこと、を信じます。

やくそく ち きかん たみ しゅみて まも  
約束の地に帰還した民を、主が御手で守ってくださったように、

か ばしょもち わたし しゅ ささ  
遣わされた場所で用いられる私を、主が支えてくださいます。

みことば き こころ ひら しゅ うなが う ともの  
御言葉に聴き、心を開き、主の促しを受け取る者としてください。

わたし しゅ しんらい しゅみて うち つぎ いっぽ ふ だ  
私は、主を信頼して、主の御手の内に、次の一步を踏み出します。

しゅ な いの  
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」